
東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2019年 No.2 (2019.6)

・ 第72回東北学生陸上競技対校選手権大会

男子総合2位 女子総合4位

男子100m 芦田周平(3)、男子400m 水戸部慶彦(5)、男子5000m、10000m 松浦崇之(4)、

男子走高跳 山下一也(M1)の4名5種目で全カレ出場権を獲得!!

・ 宮城県春季陸上競技大会	2 ページ
・ 令和元年度第一回部員総会	2 ページ
・ 第72回東北学生陸上競技対校選手権大会	3～13 ページ
・ 自己ベスト更新者	14 ページ
・ 今後の予定	14 ページ
・ 編集後記	14 ページ

入梅の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今号では、第72回東北学生陸上競技対校選手権大会の結果を中心にお伝えします。

◎宮城県春季陸上競技大会(4/28～4/29)

・・ひとめぼれスタジアム(利府)

この大会は宮城陸協に登録している選手しか出場できないため出場者は限られていましたが、各選手健闘が見られました。東北大学からの入賞者を紹介します。

男子 800m	谷口 尚大 (3)	1位	1'59"12
	荒田 啓輔 (M1)	5位	2'00"02
男子 5000m	松浦 崇之 (4)	1位	15'05"17
男子 400mH	井戸端 佑樹(3)	5位	56"01
男子 5000mW	森 渉 (M2)	4位	25'24"21
男子走高跳	山下 一也 (M1)	1位	2m01
男子棒高跳	高橋 昇之 (M1)	4位	4m40
	藤井 大輝 (M1)	6位	4m30
男子円盤投	楠 哲也 (5)	4位	39m09
	大野 誠尚 (2)	7位	31m31

◎令和元年度第一回部員総会(5/10)

・・川内北キャンパス講義棟 C200 教室

5月10日、川内北キャンパス講義棟 C200 教室で令和元年度第一回部員総会が行われました。最初に佐藤部長、彦坂副部長、吉田監督から挨拶がありました。令和元年度活動予定の報告などの後、新入部員の紹介が行われました。

◎第 72 回東北学生陸上競技対校選手権大会 (5/17～5/19) ひとめぼれスタジアム(利府)

対校結果は男子総合 2 位、トラック優勝、フィールド 3 位、女子総合 4 位、トラック 4 位、フィールド 6 位でした。全日本インカレ出場者がのべ 6 名輩出された他、多くの種目で入賞し、各選手健闘しました。各選手の結果とその様子を紹介します。

男子 100m 予選

1 組 3 着 白鳥海知(5) 11"14(-2.1)

スタートと加速でトップに立つが後半脚が流れ伸びに欠ける。3 着でゴール。

3 組 1 着 芦田周平(3) 10"86(-1.1)

ゆっくり流して走った。1 着でゴール。

5 組 3 着 藤井佳祐(M2) 11"00(0.0)

スタートはまずまずであったが起き上がりが早かったように感じる。しかし、予選ということもあり最後のほうは力を抜きリラックスし 3 着でゴール。

男子 100m 準決勝

1 組 5 着 白鳥海知(5) 11"22(-2.1)

加速においてかれ中盤で順位を上げた。予選同様後半脚が流れ伸びに欠ける。5 着でゴール。

2 組 1 着 芦田周平(3) 10"68(+0.8)

力を入れずに走った。1 着でゴール。

3 組 5 着 藤井佳祐(M2) 11"03(+0.6)

スタートは起き上がってしまい上手くスタートが出来ていなかった。また、走りも反発をとれていないように感じ、上に浮く無駄の多い走りであった。スタートで失敗し焦ったのか全体的に力んでおり、中盤も伸びず 5 着でゴール。

男子 100m 決勝

1 着 芦田周平(3) 10"73(-3.0)

スタートから本気を出して走った。最後までしっかり走って 1 着でゴール。

男子 200m 予選

3 組 1 着 芦田周平(3) 22"78(-1.0)

スタートが上手く出れた。そのまま流して 1 着でゴール。

4 組 3 着 藤井佳祐(M2) 23"34(-3.2)

スタートは抑えめ。カーブ抜けた瞬間は

全体の 5,6 番目であったが直線に入りテンポアップし 3 番まで上がった。リレー決勝のために力を温存し最後は流してゴール。

5 組 2 着 白鳥海知(5) 22"85(-0.3)

2 番手で直線に入り中盤からはその順位を維持しつつ流してゴール。

男子 200m 準決勝

1 組 3 着 藤井佳祐(M2) 22"30(-1.9)

一番大外のレーンであったため、スタートから逃げ切るために飛び出した。苦手なカーブも改善がみられた。最後は追い上げられ 3 着になったがプラスで拾われ決勝へ。

2 組 3 着 白鳥海知(5) 22"74(-0.8)

前半大きく走ることができていたが、もっとスピードが欲しい。後半はピッチこそ上がっているものの重心が後ろになってしまい完全に力を貰えておらず 4 着でゴール。

男子 200m 決勝

6 着 藤井佳祐(M2) 22"51(-4.1)

一番内側のレーンでありスタートで飛び出した直後に横風でよろけた。カーブを苦手としており、内側レーンで走りにくそうであった。最後は体力が無く伸びず遅いタイムでゴール。最後の東北 IC であった。

女子 200m 予選

3 組 1 着 佐貫有彩(4) 25"81(-1.0)

出遅れなくスタートする。コーナー中盤で 1 つ外の選手を抜き、2 つ内の選手と並んで 100m を通過。コーナーを出た段階でトップに立ち、余裕を持って 1 着でゴール。

女子 200m 決勝

1 着 佐貫有彩(4) 24"58(+0.2)

スタートで出遅れ、一つ外の選手に少し離される。コーナーで詰めていき、6・8レーンの選手と 100m を並んでトップで通過。

その後はコーナーの出口で後続を引き離し、2位に0.7秒差をつけてゴールした。

男子 400m 予選

1組 5着 八巻隼人(3) 50"42

前半から飛ばし200mを通過。しかし力が入りすぎたか300m通過から失速。ラスト直線で持ちこたえられず5着でゴール。

2組 1着 水戸部慶彦(5) 49"49

スタートからバックストレートに入るまでの練習をシーズン初めから取り組んできたが、練習通りに走ることができ、その後の展開に繋がった。苦手としていた200から300の区間でもリードを奪うことができ、最後はかなり余裕を持ってフィニッシュ。

3組 2着 佐藤千仁(1) 50"86

入りの150mまではスムーズに加速したものの、第三コーナーから徐々に動きが乱れる。ラスト80mでの再加速が見られず、一着を逃した。

男子 400m 決勝

1着 水戸部慶彦(5) 49"06

予選と同様にスタートが上手くいった。その流れで以降も有利なレース展開で走ることができた。

改善点としては、予選決勝と曲線の走りに変化がありそれを生かすことができたが、曲線と同じストライドやピッチで直線を走ってしまったために、直線での接地ポイントやストライドがいまひとつであったことが挙げられる。加えて最高速度の不足もタイムが伸び悩む一因と思われる。曲線と直線での走りの切り替えを上手く行えるようにすること、全身の筋力を更にバランスよく付けることを意識して練習を積み重ねていきたい。

女子 400m 予選

1組 1着 佐貫有彩(4) 57"69

スタートしてからバックストレートまで快調に飛ばしていくも4レーンの選手に先行される形で200mを通過。250m過ぎか

ら動きが鈍くなり1つ内の選手に詰められるも、直線で粘ってギリギリ1着でゴール。

2組 5着 小川明音(2) 62"43

スタートではうまく加速できず、300mはトップと大きく差が開いた6番手で通過。ラスト70m付近で隣の選手を追い抜き5着。

女子 400m 決勝

1着 佐貫有彩(4) 58"53

スタート後、かなり攻め150m程で1つ外の選手を抜かす。300m通過はトップであったが、ホームストレートでピッチ・ストライド共に落ちかなりの減速。1つ外の選手にかなり詰められるも何とか逃げ切り辛勝した。

男子 800m 予選

1組 1着 川口航汰(M1) 2'03"40

ブレイクして2番手に着き、そのままの順位で400mを63秒で通過した。500mから加速し始め550mで先頭に出た。そのまま先頭を維持して1着で通過した。

2組 2着 谷口尚大(3) 2'05"41

ゆっくりと加速し、集団の後ろにつき200mを31秒で通過。そのまま一周目を65秒で走り、ラスト300m時点で先頭に出たが後ろを離せず、他大学の選手がラスト200mで飛び出し5番手につく。ラストの直線でうまく加速し、2着でゴール。

4組 1着 荒田啓輔(M1) 2'02"31

ブレイク後、4位の位置仙台大の選手の後ろにつけ、1周目を62秒で通過した。2周目に入るあたりで一度2位と距離が離れたが、バックストレートで再び距離が詰まった。残り200から2位に上がり、徐々にペースを挙げ、ホームストレートで先頭に出て、そのままフィニッシュした。

男子 800m 準決勝

1組 1着 谷口尚大(3) 2'00"79

200mを29秒で通過し、集団の真ん中につく。誰も仕掛けず徐々に失速し、400mを60秒で通過。ラスト300mから先頭に立ち、

ビルドアップのように段々と加速し、最後まで逃げ切り1着でゴール。

2組1着 川口航汰(M1) 2'00"03

ブレイクで接触しつつも4番手に着いた。そのままの順位で400mを61秒で通過。その後予選と同様な展開で1着でゴール。

2組2着 荒田啓輔(M1) 2'00"32

ブレイク後、前に出ようとした際に川口と接触し、そのまま川口の後ろについた。300mで先頭のペースが大きく落ち、そのタイミングで2位まで上がった。400m通過は61秒。バックストレート終わりくらいからペースを上げ始め、再び川口が前に出たため後ろにつけた。そのままペースが上がり、同じ位置関係のままフィニッシュ。

男子 800m 決勝

2着 荒田啓輔(M1) 1'56"44

スタートと同時に仙台大の選手が大きく飛び出したため、ブレイク後、先頭を追いかけ、200m過ぎで追いついた。ホームの向かい風でペースが落ち、400mを56秒で通過した。2位のまま、バックストレートに入り、カーブに入るタイミングで先頭に飛び出した。ホームストレート残り60くらいで並ばれ、先頭が交代したあたりで減速し、2位でフィニッシュした。

3着 川口航汰(M1) 1'57"04

ハイペースの展開に反応出来ずにブレイク後6番手に着いた。そのまま縦1列の状態で試合が進み400mを57秒で通過。バックストレートで1人に抜かれ600mを7番手で通過。その後追い上げ3着でゴール。

4着 谷口尚大(3) 1'57"08

仙台大の選手が初めから飛ばしブレイク後から集団が縦長に。ハイペースに対応できず集団の7番手につける。400m通過は57秒。ラスト300mから仕掛け、直線に入るところで3番手まであがる。しかし、直線で後ろの選手にさされ4着でゴール。

女子 800m 予選

1組2着 上條麻奈(4) 2'21"95

ブレイクしてから先頭集団の前方を走る。1周目を71秒で通過し、バックストレートで先頭に出た。ラスト100mで1人に抜かれるも順位を保ち2着でゴール。

2組3着 小川明音(2) 2'26"31

300mまで集団後方を走り、そこから順位を上げ400mを3位で通過。この順位をキープすると、600mで集団のスピードが上がり先頭に離されるもそのまま3着でゴール。

3組4着 加藤ひより(3) 2'31"98

ブレイク後、2位集団の前方を走る。200m以降はスローペースで、400mを76秒で通過。このペースで650mまで行き、そこで先頭に出るが残り100mで2人に抜かれ4着でゴール。

女子 800m 決勝

4着 上條麻奈(4) 2'19"15

序盤は集団が広がり5番手につく。ホームストレートで2人を抜き、400mを3位で通過。そこから3位集団の先頭を走るが、600mで1人に抜かれるとそのまま離され4着でゴール。

男子 1500m 予選

1組7着 菅野輝広(2) 4'18"92

スタート直後から4~7番目に位置し、集団の外側を走った。予選らしくゆっくりと3分/kmのペースでレースが進み、残り400~600mでペースが上がった。そこから200mは粘ったが徐々に離され、最後の200mで完全にスピード負けし、7着。

2組1着 松田将大(M1) 4'17"70

スタートから先頭付近に付けたが牽制が起こり、ゆったりしたペースになる。1000mを3分丁度で通過し、そこから徐々にペースが上がったものの常時先頭付近をキープし、ラスト100mで4人横並びになるものの、僅差で1着でゴールした。

2組5着 村松兼志(3) 4'18"01

スタートし、スローな展開で進む。集団のやや前方につき1周目の通過は75秒。2周目もそのままで800m通過は2分28秒。3周目でペースが上がり先頭集団の後方となる。ラストのスパートで少しずつ順位を上げていくも少し及ばず5着。

男子 1500m 決勝

4着 松田将大(M1) 4'28"57

最後尾で集団の様子を窺いながらスタートしたが、稀に見るスローペース。覚悟を決めて800m通過で一気に最後尾からペースを上げて集団先頭に立つ。そのまま逃げ切りを図ったがラスト100mで捕らえられ、ペースが落ちて4着でゴール。ラップ 80-87-55-45 という激しいレースになった。

8着 村松兼志(3) 4'30"37

予選よりもさらにスローな展開。集団の中盤外側について様子をうかがう。1周目の通過は79秒。2周目はさらに遅くなり800mを2分47秒で通過した。ここで仙台大の選手が飛び出して一気にペースアップし、集団が縦長になる。ホームストレートで先頭集団から離されてしまい8位集団を走る。ラスト150mでスパートをかけ単独8位になりそのまま前を追いかけるも追いつけず8位のままでゴール。

女子 1500m 決勝

4着 上條麻奈(4) 4'46"93

スタート後集団の中ほどにつける。2周目に入り集団がばらけ、3番手でレースを進めた。残り300mでのペースアップについていけず、4着でゴールした。

男子 5000m タイムレース決勝

1組1着 総合1位 松浦崇之(4) 15'02"49

1組5着 総合5位 立野佑太(4) 15'40"48

1組13着 総合14位 田沼怜(3) 15'59"92

松浦は最初の1000mを先頭集団を引き2分56秒で通過。立野は松浦が飛ばすことが分かっていたため、第2集団を引きながら

3分1秒と落ち着いて通過。田沼も第2集団内で1000mを通過。松浦は次の1000mを2分58秒で走り、後続を突き放した。立野は第2集団を引く形で、田沼は第2集団内でレースを進めた。立野は予想以上に風が強かったことや状態があまり良くなかったことで、3000m過ぎから動きが悪くなり、集団から離れそうになった。ここで、田沼が落ちてきた2~7位の選手との距離をさらに縮めるために、集団から飛び出した。立野も田沼に付いた。松浦は2000mから単独走を維持したままゴールし、優勝した。立野は何とか最後の1000mで粘って5着でフィニッシュ。田沼は前半のオーバーペースが祟り、前方の選手を捕まえきれず、ラスト1000mも切り替えることができずにずるずると落ち、組13着でゴールした。

女子 5000m 決勝

4着 栗原唯(M2) 17'31"96

スタートから先頭集団の後方に。ペースも3'30前後と速すぎず、強い風も集団が盾となり4000mまで力まずについていく。ラスト800で先頭が出たものの、バラけた集団に巻き込まれ5位に。600mから少しずつペースを上げたが先頭を捉えられず、ラスト200mで4位となりフィニッシュ。

男子 10000m 決勝

1着 松浦崇之(4) 31'16"63

4着 脇田陽平(4) 32'57"85

6着 木村 秀(3) 33'10"83

スタート直後は松浦がハイペースで集団を離すも、後続が追いつき大きな集団を形成し、脇田、木村は5、6位の位置についた。松浦はそのままペースを落とさず先頭を引っ張るが、800m手前から木村、脇田の順に松浦を含む4人の先頭集団から離れだし、1200mあたりで脇田を先頭に木村が続き、9人ほどの5位集団を形成した。2000m過ぎで松浦から2位以下の3人が離れだし、松浦はペースをあまり落とさないまま独走

状態となった。2位集団は3人固まったまま少しずつペースを落としながら松浦と離れ、5位集団は途中他大の選手が集団から飛び出たりしつつも、脇田と木村が主に先頭を引きつつ2位集団との差を詰めていった。4000m付近で4位集団にいた選手が飛び出し、2位集団に追いついたのをきっかけに集団が崩れ、脇田、木村は2位集団を木村が脇田に少し遅れる形で追い、脇田は6000m手前で2位集団に追いつくも、木村は集団から離れた位置で走る展開となった。松浦は独走状態のまま7300m付近で脇田を含む5人となった2位集団を周回遅れにしたところで2位集団が反応し、集団が崩れ、2位と3位の選手が松浦を追うが、脇田は続くことができず、少し出遅れた4位の選手を追い、木村はそれを後方から単独のまま追う形となった。松浦はそのまま周回遅れにした2位の選手も突き放し、1位でゴール。脇田は4位の選手を追い抜きスパートをかけるも3位までは追いつかず、4位でゴール。木村は前後の差を保ったまま粘り抜き、6位でゴールした。

男子 110mH 予選

1組 5着 楠木啓介(M2) 15"62(-2.2)

隣のレーンと一台目の入りから離された。その後も向かい風の影響でインターバル間の走りが良くなく、後半は何台かハードルが倒れるくらいぶつけて大きく減速。5着でゴール。プラスで決勝進出。

2組 4着 羽根田佑真(4) 16"02(-1.8)

強い向かい風の中スタート。出は良かったが、1台目でぶつけてしまう。その反動と、向かい風の影響でスピードが上がりきらないまま周りに遅れをとり、4着でフィニッシュ。向かい風の中での戦いに課題が残った。

男子 110mH 決勝

8着 楠木啓介(M2) 15"74"(-1.2)

決勝も一台目から周りと差がついてしま

い出遅れた。後半で巻き返して差を詰めようとしたがなかなか詰まらず8着でゴール。

男子 400mH 予選

1組 3着 鈴木景(4) 57"16

スピードを抑えたスタートから2台目まで加速し、バックストレートはリラックスして走った。バックストレートは向かい風が強く歩数の乱れが心配されたが、予定通り通過。5台目以降は歩数を増やしピッチを高めて10台目まで他3選手を交わす。10台目以降は内側の仙台大と競り合うもラスト5mでかわし3着でフィニッシュ。

2組 4着 井戸端佑樹(3) 56"90

前半から飛ばして200通過は全体の2番手。しかし走り自体が腰が落ちていたことと前半の向かい風の影響で後半大きく失速し全体4着でゴール。この組に有力選手が集まり全体のタイムが速かったため辛うじて決勝に進出。

3組 2着 加地拓弥(3) 56"84

スタートから1台目までで向かい風が強く、1台目の入りが遠くなった。それでも再加速し2台目、3台目を14歩で跳ぶ。バックストレートも向かい風がやや強かったため15歩に切り替えるが足が重くなるのが早く、予定より早い8台目で16歩に切り替えてしまい、9、10台目も17歩になってしまった。決勝のために流すことは決めていたが後味の悪いレースとなった。

男子 400mH 決勝

4着 加地拓弥(3) 55"36

予選同様に周回逆向きに風が回っている中でのレースであった。そのため、好タイムは出にくいと判断し、オール15歩のレースプランに切り替えた。スタートから1台目までいいスピードで入れたが1台目で抜き足をハードルに強くぶつける痛恨のミス。そこから何とかバックストレートを刻んでいくが、インターバルの走りがいまいちでスピードも出ない。5台目を跳び越え、ギア

を上げていこうとしたがやはり思った通りに体は動かず、8台目で16歩に切り替えた。ホームストレートで強い向かい風に押し返されるが9、10台目を何とか16歩で跳び越え、4着でフィニッシュ。

7着 井戸端佑樹(3) 56"53

予選よりゆとりを持った走りとハードリングで前半を3番手近くで通過。予選ほどバラついた走りにはならなかったものの、向かい風が回っていたこともあって後半歩数が増加し徐々に順位を下げ7着でゴール。走練不足を実感したレースになった。

女子 400mH 決勝

6着 柄澤菜々美(3) 74"34

スタート位置で右前からのやや強い風を感じる。アプローチは力強く走り、2、3台目での18歩も上手くいく。次から1歩増やす時につまると、6、7台目でまた1歩ずつ増やしてしまいピッチが落ちて減速。それでもほぼ並走していた外の選手を捉えながら最後の直線に入り、ラスト数メートルでもう一人抜き粘りの6着。

男子 3000mSC 決勝

7着 木村秀(3) 10'00"22

12着 三浦慧士(3) 10'17"22

17着 酒井健(2) 10'35"44

木村は前日のレースの疲労や全体的にスローペースでレースが始まったこともあり、集団の中で周りに近い位置どりで、三浦、酒井は集団最後方でレースを進めた。木村は2周目以降は比較的前方でレースを展開し、大きくペースアップやダウンがないまま、8人ほどの集団を形成して2000mを通過。三浦も2000mを先頭集団の最後尾に食らいつきながら通過した。酒井は1000m手前までは集団と10mほどの差を開けて走っていたが、その後は前との差が開き続けた。木村は2000m通過直後の障害付近で先頭に出た。しかし集団から抜けきることができず、ラスト1周へ。他大の選手のスパ

ートに喰らいつけず、先頭とは11秒ほど離れて7位でレースを終えた。三浦はペースアップに対応できずに遅れ12位。酒井は落ちてきた選手を何人か追い越したが、ラスト100mで2人に競り負けて17着。

男子 10000mW 決勝

2着 寺島智春(3) 43'49"34

5着 中川岳士(M2) 45'27"77

9着 泉健太(2) 47'45"31

日射しと向かい風が強いコンディションの中でのレース。

寺島はスタートから仕掛けて後続を引き離すが岩手大の一番手に追い付かれ二人旅に。そのまま寺島が岩手大を引っ張り続けてしまい、9000mで岩手大にスパートを掛けられるも寺島は対応出来ず2位でゴール。

中川は寺島に釣られてハイペースになった入賞争いの集団に付かずほぼイーブンペースで歩く。3000m過ぎから集団から垂れた選手をほぼ最後尾から拾っていき、5位まで登ってゴール。

泉は最初は中川についたが4000m過ぎから失速。集団から離れた山形大学と抜きつ抜かれつだったが、最後はスパートを掛けられず10位でゴール。ゴール後失格が1人おり9位に繰り上がる。

中川が3000m辺りで警告が一枚出るも、寺島と泉は出ず他大学と比べ安定した歩きを見せた。

女子 10000mW 決勝

3着 青木まひろ(2) 56'20"28

5着 小野内花倫(1) 63'51"88

昼時からの競技開始だったため、かなりの日差しと気温の中でのレースとなった。青木は二位集団で途中までレースを運んだ。中盤で1位に追い付くため一人ペースを上げるも、追い付ききれず8000mで失速。一人に抜かされて3位でゴール。小野内は前の選手に惑わされることなく冷静にペースを刻み、5位でゴールした。

男子 4×100mR 予選**1組 1着 41"86****白鳥(5)-芦田(3)-上村(2)-藤井佳(M2)**

1 走白鳥は外側の一枚を抜いてバトンパス。2 走芦田は内側一枚に近づかれてバトンパス。3 走上村は内側一枚に抜かれてバトンパス。4 走藤井は内側一枚を追い抜いてそのままフィニッシュ。

男子 4×100mR 決勝**2着 42"05****白鳥(5)-芦田(3)-上村(2)-藤井佳(M2)**

1 走白鳥は若干ヌルツとしたスタートだった。他大学との差をキープしたままパス。2 走芦田は一位の学院との差は縮まらないもののその他とは差をつけパス。3 走上村は上位2校との差をキープしつつ他大学との差を少し広げパス。4 走藤井は前との差が縮まらずそのまま2位でフィニッシュ。

女子 4×100mR 決勝**6着 51"39****神谷(3)-佐貫(4)-小川(2)-柄澤(3)**

1 走神谷は勢いよくスタート。1つ内の山形大に抜かれ、やや詰まる形でバトンパス。2 走佐貫は他大学との順位・差は変わらず、こちらもやや詰まってバトンパス。3 走小川はコーナーで内の東北学院と八戸学院に抜かされ、6位でバトンを渡す。4 走柄澤は前との差が縮まらず、そのまま6位でフィニッシュ。

男子 4×400mR 予選**2組 3着 3'22"91****岩波(M1)-八巻(3)-佐藤千(1)-加地(3)**

1 走は岩波。前半から積極的に飛ばし、トップと僅差で200mを通過。しかしカーブに入ってからスピードを維持出来なくなり、直線に入ってから足が止まってしまう。やや差をつけられ5番手でバトンパス。

2 走は八巻。ブレイクから200m地点までで前の福島大との差をほぼ詰める。抜こうとするが相手もギアを上げて抜かせず、

後ろを付いていく。後半踏ん張り、ラスト50mで秋田大を抜き4番手でバトンパス。

3 走は佐藤。前半から前の福島大との差を縮めようとするがまだ本調子の走りとは言えず、差はなかなか縮まらない。300mを過ぎたあたりでギアを上げラスト50mで福島大を抜き3番手でバトンパス。

4 走は加地。100m地点で前の八戸学院大を抜き去る。しかしキレのある走りとは言えず、差は広がらずに八学、福島大に付かれる。300m地点で後ろ2人が一気にギアを上げ、八学には抜かされるが、福島大はかわして3着。着順で決勝へ進む。

男子 4×400mR 決勝**4着 3'22"43****白鳥(5)-八巻(3)-佐藤千(1)-加地(3)**

1 走は白鳥。前半から安定したスピードを出し、ほぼトップで200mを通過する。しかし、カーブに入ってから減速が大きく、ラストの直線も踏ん張りきれなかった。5番手付近でバトンパス。

2 走は八巻。前半は抑えたのかブレイク時点で7位となり、一つ前の宮教大を追う。300mまでに後ろが迫るが直線で踏ん張り、2人を抜き去った。5番手でバトンパス。

3 走は佐藤。前半から果敢に攻めスピードが出ていた。150mで前の福島大を抜き去るが200mで後ろに付いていた山形大に抜かれる。後半何とか前に食らいつこうとするが差は縮まらず、ラストの直線で福島大に抜き返される。6番手でバトンパス。

4 走は加地。150m地点で前の山形大を抜き、そのまま2位集団に食らいつく。しかし前に出ることができないままラストの直線勝負へ。直線に入ってから後半の伸びは見られず足が止まっていた。しかし、なんとか踏ん張り、ゴール10m手前で福祉大を抜き4着でフィニッシュ。

女子 4×400mR 決勝

6 着 4'07"52

小川(2)-佐貫(4)-加藤(3)-上條(4)

1 走小川は 8 レーンからスタートし、バックストレートをリラックスして走る。ホームで 4 レーンの福島大に抜かされるも、1 つ外の岩手大との差を詰め、他 2 大学と同時に 4 番手でバトンパス。

2 走佐貫は 150m 付近で 1 つ前に行く八戸学院を抜き 3 位に上がる。ホームで減速し後続の 3 大学にかなり詰められる形でバトンをつなぐ。

3 走加藤はバックストレートで少し後ろにいた 3 校に抜かされる。後半は何とか粘り、1 つ前の山形大と 10m 差の 6 位でバトンをつなぐ。

4 走上條は山形大に少し離され 200m を通過。得意の後半で前の大学との差を詰めるも届かず、6 位でゴールした。

男子走高跳 決勝

1 位 山下一也(M1) 2m06

試技開始の 1m90 から、1m95、2m00、2m03 を全て 1 回目でクリアした。ここまでは助走の流れもよく、踏切姿勢の後傾もうまく作れていた。しかし、2m06 になってから、助走の流れは良いが内傾での踏切準備の後傾が浅くなり、バー側に突っ込んだ跳躍になった。2m06 は 3 回とも失敗したが、1 位決定戦のジャンプオフが続いた。1 回目の 2m06 は後傾が比較的改善したが失敗。2 回目の 2m04 は後傾がしっかり作れ、跳躍角度もありクリア。3 回目の 2m06 も同様にクリアした。ここで相手が失敗したため 1 位が決定した。

2m03 までは助走の流れ、踏切姿勢ともに良かったが、2m06 にかから踏切準備ができずに跳躍が崩れてしまった。結果的には勝てたが、本来は 2m06 を通常の試技内でクリアすべきであった。今後はより一層跳躍の安定性を高め、常に完璧な状態の跳躍

ができるよう練習を積んでいく必要がある。

13 位 高橋潤(3) 1m80

1m75:1 回目は曲線で風に押されて助走が合わずに踏み切れなかったが、2 回目にうまく調整してクリア

1m80:助走スピードに足が負けているようだったが 1 発でクリア。この辺りから助走が不安定になってきた。

1m85:向かい風の中 3 本ともまともな踏み切りにもっていきることができなかった。

強風が吹く悪条件の中で、助走の不安定さが明るみになった。助走の出だしを変える等、不安定さを解消するための具体的な改善策を考えなければならないだろう。

14 位 渡辺智輝(4) 1m75

体の調子は良く、助走のリズムも悪くはなかったが、曲走中に向かい風の影響で前傾してしまい、結果として後傾が足りない流れた跳躍が多かった。1m80 の 2 回目は後傾ができ惜しい跳躍であったが、集中力が切れ 3 回目で修正しきれず失敗となった。

風が止んだタイミングもあったので時間を使って風をみて試技を始めたり、風に合わせて助走距離を変えたりすべきであった。

女子走高跳 決勝

3 位 中村真璃子(5) 1m55

150 からスタートし、50、55 と 1 回目でクリアした。55 は浮きもあり、調子が良いと思われたが、60 の 1 本目で足が攣り、そこからは調子を戻すことができず、3 回失敗して終了した。

当日は思っていたよりも暑く、水分補給が不足していたと考えられる。調子が良かっただけに悔やまれる結果となった。

男子棒高跳 決勝

2 位 藤井大輝(M1) 4m50

4m30 を 1 本目、苦手意識のある 4m40 を 2 本目、PB タイの 4m50 は 1 本目で成功した。

課題は突っ込んだ後の振り上げが甘く蹴

り上げた際にポールから剥がれてしまい、最低点が脚の通過点になってしまうことだ。今回の試合でもその点は克服できず 4m60 の PB チャレンジ失敗の原因となった。

ポールは 15.7f170lbs を使用したが、東北大学にはそれ以上硬いものがなく、新しいポールの購入を希望している。最近ポール募金なるものを始めており、募金して頂ける OB・OG の方は tonpeipole@gmail.com までご連絡下さい。

7位 佐々木玲(2) 3m60

360 は一本でクリア。左手が潰れてしまい悪い突っ込みではあったが難なく飛べる高さであった。380 の 1 本目の助走から踏切の局面で足を攣り、その後は全く走れなくなり 380 はクリアできなかった。調子は良かっただけに非常にもったいなかった。

技術的な進歩が必要なことはもちろんだが、今後の気温が高くなる試合でどのようにアップするかが記録を左右すると言えるので、アップの内容を考えていきたい。

8位 佐藤泰河(3) 3m20

3m20 からスタートした。試技練からまったくポールが立たず振り上げができなかった。3m20 は 2 回目でクリアしたが、次の 3m40 ではポールが立たずかつ振り上げも遅れてそのまま終わってしまった。

課題は突っ込み安定である。主な原因は右手が頂点にないこと、体が開くこと、手前で減速すること、右手が押せず下半身だけが持っていかれることである。技術的な甘さが露呈した。突っ込みの安定と空中動作を練習する必要がある。

女子棒高跳 決勝

5位 神谷真帆(3) 2m30

2m00 の 1 回目、跳べてはいたもののポールがバーにあたり失敗。また、どの試技でも助走が上手くはまっておらず、走り方にも問題がある。ターンも体が振られていた。越える練習を重点に置いていたが、ポ

ールと共に走る感覚や、春合宿のときに掴んだポールを置いていく感覚を見直して向上させていくことが課題である。試合一週間前に十分な調整が出来なかったが、どんな条件でも跳ぶ感覚をすぐ思い出せるようにすることが必要。また、他大の選手は曲げて跳んでいたため、曲げを参考にして吸収し、次に生かしたい。

男子走幅跳 決勝

10位 今泉裕真(M1) 6m90(+3.2)

1本目 6m90(+3.2)

踏切 1 歩前でのアクセント(沈み込み)があり、高さの出た跳躍であった。助走のキレは無かったが、追い風に上手く乗ってスピードはまずまず出ていた。

2本目 6m85(+3.1)

1 本目と比較して踏切手前のアクセントがなくスピードに乗れた助走であった。しかし、踏切時の動作スピードが早い分、踏切が間に合わず潰れて低空の跳躍となった。

3本目 6m69(+3.6)

助走に力みを感じられた。2 本目同様、高さのない跳躍となったのに加えて、3 本目は着地姿勢に入るのが早く(全試技共通だが、3 本目が顕著)、空中での伸びがない跳躍となった。

記録こそベストタイではあるが、踏切前の不安定性や空中動作の改善など、課題が多く見られた試合内容であった。

15位 古俣諒大(3) 6m67(+1.4)

一本目 F 助走距離 39.3m 19 歩

助走の速さに対して踏切動作が間に合っておらず潰れていた。少し板が遠かった。

二本目 F 助走距離 39.0 19 歩

最後の 3 歩のアクセントが強すぎてかなり減速している。踏切板を見過ぎだった。

三本目 6m67cm(+1.4) 助走距離 39.5 19 歩

スピード感は非常に良かったがラスト 3 歩間延びした。踏切も微妙。もっと体を腰に乗せる必要がある。

28位 須郷大地(3) 5m97(+0.6)

1本目 5m97(+0.6)

風の変化に対応できず、足が合わなかった。踏切前の減速はなかったが、スピードに耐えられず高さのない跳躍となった。

2本目 4m49(+2.8)

踏切前で大きく減速し、踏切で突っ張るような跳躍になり、前回転を抑えられず着地できなかった。

3本目 F

2本目と同じような助走ではあったが、着地まではもっていくことができた。高さは出たが、踏切前の減速が顕著であることが課題である。

走幅跳の助走が全く固まっていないように見られたので全助走練習を積み、自分の跳躍を固めていくことが望まれる。

男子三段跳 決勝

12位 大坂天心(2) 13m29(+0.9)

1本目 F

助走でリラックスしすぎていた。ホップで力が伝わらずステップに入る準備が不十分であった。

2本目 13m29

板に乗らない跳躍だった。1本目で記録を残せなかった分、強引に足を回してステップの接地を早くした。ホップで距離が稼げなかった分記録も出なかった。ジャンプまでのスピードは比較的維持されていた。

3本目 F

明らかなファールでホップで力が入っていなかった。着地までまとめてはいるがただ足をついただけという印象だ。

練習時からタイミングのズレが見られた。ホップを置きに行った結果、統一性のない跳躍になった。攻めるべき局面で躊躇しない気持ちを持つ必要があると感じた。

15位 須郷大地(3) 13m00(+1.0)

1本目 13m00(+1.0)

これまでの課題はステップ時に前傾して

しまうことだったが、助走スピードが少し遅かったため前傾が少し抑えられジャンプで着地まで持っていくことはできた。

2本目 12m23(+1.3)

3本目 12m10(+1.0)

2、3本目ともにステップで前傾してしまい、前回転を抑えられず着地に入れなかった。スピードを出すとこのような跳躍になってしまうため、全助走で、ステップで前傾しないようなポップの接地練習をすることが望まれる。

NM 松岡恭平(4)

追い風の強い試合であったため、助走を合わせるのに苦労した。全ての跳躍で板を踏むことができなかった。無理に合わせた助走の影響で跳躍も不安定になった。全助走で安定した助走、跳躍が出来ることが今後の課題である。宮城野原や利府での全助走跳躍を増やすことが望まれる。

男子砲丸投 決勝

7位 大野誠尚(2) 11m81

1投目は置きにいく投げをし、11m付近。
2投目はグライド足をまっすぐ移動することを意識し、11m40。3投目は砲丸の軌道を高くすることを意識して投げ、11m81。7.2kg砲丸のPBを高2ぶりに更新できた。
4投目以降はグライドの速さをあげて思い切って投げたが11m前半であった。総じて筋力不足による実力差が他の選手に比べて目立ったと思われる。腰回りやハムストリングスの筋力強化が課題だと分かった。

男子円盤投 決勝

9位 大野誠尚(2) 30m80

あまり練習を積めていない状態での大会となってしまった。練習投擲から腕に力が入った投げで緩急がないと感じた。1投目は置きにいき30m80。ターンが比較的安定していたため30mを超えた。2、3投目は記録を狙いに行ったがターンが不安定で2ファールしてしまった。総じてターン動作

を安定させるための技術不足が課題である。

12位 嘉津山拓登(3) 28m74

1,2 投目はスイングからのファーストへの入りが遅れ、全体的に腕の下りと勢いがなかった。記録が出ず焦った結果、3 投目は速さを意識しすぎてリリースが早くなり F。総合的にまとまりの悪い試技となった。

男子ハンマー投 決勝

4位 野尻英史(M1) 35m55

院生としての初の公式戦。出場できる大会が減った分、少ない機会ですっかりと記録を残したい。

1 投目、2 投目共にファール。上半身が泳ぎ、地面から力を受けられなかった。3 投目は記録を残しにいき、32m 台。残り 3 投を確保しにいった。4 投目以降は記録を狙いに 2 回転から 3 回転にターンを増やした。結果的に 4、5 投目を調整に使った形で、6 投目に 35m55 を記録し、これが最終結果となった。

全体的にフォームが安定せず、練習不足が目立ったが、ターンスピードは出ていたので、調整を重ねて次の試合に活かしたい。

5位 宮本貴広(3) 33m85

1 投目 置きにあってリリースだけで投げた。

2 投目 リリースのスピードをあげるイメージで投げた。体が後傾しすぎて体重をのせられなかったがこの日のベスト。

3 投目 若干前傾して投げた。リリースのタイミングが遅れた。

4~6 投目 勝負しにいったが軸が最初から傾いていい記録はでなかった。

技術の反省点が多いので北大までに修正したい。

男子やり投 決勝

11位 秋葉湧太(2) 48m70

1 投目 48m70

ファールを避けるため助走を本来の 2m ほど後ろからスタートした。クロスステップで右に寄ってしまったがまずまずの投擲だった。

2 投目 42m58

本来の助走にし、1 投目に比べ助走のスピードを上げたが、ブロックの際に前日から違和感のあった左足首を痛めてしまい、力をやりに加えることが出来ておらず、さらにやりも吹き上がってしまった。

3 投目 43m34

痛めた足首の影響で、投げがバラバラになってしまっていた。

記録は UB ではあるが、クロスステップ時の不安定さ、やりへの力の伝え方の拙さが露呈した。

15位 大浦裕一郎(2) 42m15

1 投目 ファールをしないよう気を付けた結果腰を痛めてしまい、投の練習を積めていなかった事もあり、動きが小さくなり 42m 付近の記録であった。

2、3 投目 1 投目で肩を痛め、腰を痛めていたこともあり、完全に手投げになってしまい両方とも 40m 付近の記録であった。

16位 吉田知将(4) 40m28

1 投目、身体が前に突っ込みブロックでタメも作れず 40m28。2 投目は肘が下がり体の突っ込みも修正できず 38m14 と記録を落とす。3 投目では肘の高さを意識したが投げた瞬間から槍の先端が上がり失速。2 投目より記録を伸ばすも 39m46 と 3 投とも自己ベストには及ばなかった。

◎自己ベスト更新者一覧(3/1~5/21)

- ・男子 200m
八巻隼人(3) 22"63(-0.4)(福島大競技会)
- ・男子 800m
川島 啓(3) 1'58"89(日体大競技会)
高倉直幸(3) 2'00"71(日体大競技会)
- ・男子 1500m
臼井駿斗(3) 4'23"87(仙台市競技会)
- ・男子 5000m
田沼 怜(3) 15'44"08(仙台市競技会)
三浦大樹(4) 15'58"61(仙台市競技会)
牧野雅紘(2) 16'18"71(仙台市競技会)
臼井駿斗(3) 17'02"87(仙台市競技会)
- ・女子 5000m
栗原唯(M2) 17'22"40(栃木県春季)
- ・男子 10000m
木村秀(3) 33'10"83(東北インカレ)
- ・男子 400mH
二ノ神遼(2) 57"15(宮城県春季)
- ・男子 10000mW
山岸忠相(2) 50'57"98(国士舘競技会)
- ・男子棒高跳
佐藤泰河(3) 3m60(福島大競技会)
- ・男子砲丸投
大野誠尚(2) 11m81(東北インカレ)
- ・男子円盤投
大野誠尚(2) 31m31(宮城県春季)
- ・男子ハンマー投
宮本貴広(3) 33m85(東北インカレ)
- ・男子やり投
吉田知将(4) 42m45(宮城県春季)

○今後の予定

- ・6月23日 北海道大学対東北大学陸上競技定期戦 (北海道・円山陸上競技場)
- ・7月17~19日 第41回北日本学生陸上競技対校選手権大会 (北海道・円山陸上競技場)
- ・8月3~4日 第71回全国七大学対校陸上競技大会 兼 第30回全国七大学対校女子陸上競技大会 (福岡・東平尾公園博多の森陸上競技場)

○編集後記

今シーズン最初の対校戦となる東北インカレが終わりました。現在東北大学では、6名9種目で日本インカレの出場権を獲得しています。この種目数は、昨年東北インカレ終了時を上回っています。また、男女共に総合優勝は逃してしまったものの、男子はトラック優勝を果たすなど例年を超える成績を残すことが出来ました。

今後は北大戦、七大戦に向けて部員一同、一層努力して参ります。応援よろしくお願いたします。

文責 副務 黒須大地

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp